QScan 2023.2.2
Release Notes

ビジュアル・グラフィックス株式会社

重要なお知らせ 2
新機能 2
　パフォーマンスに関する改善 2
バグフィックスおよび改善点 2
既知の問題・制限事項 3

お問い合わせ：
ビジュアル・グラフィックス株式会社
テクニカルサポート部
電話： 03-6277-1895 （サポート直通）
E-mail：qscan@vgi.co.jp

Visual Graphics Inc.

重要なお知らせ

- V3.x または v2021.x を運用されている場合は新たに v2023 用のライセンスが必要です。既に v2023.0 以降へアップデート済みの場合、ライセンス更新は必要ありません。各バージョンからのアップデート方法は別資料のアップデートガイドをご参照ください。
- PDF レポートの作成手法の変更に伴い、v2023.0 以降は Windows7 では動作しません。

新機能

パフォーマンスに関する改善

チャンクベースの分析および同時分析において、一部のシステム（おそらく OS 依存）でパフォーマンスが期待通りにならないことがありました。現象は以下の通りです。

- 1 つのファイルを分析する場合、CPU 使用率が約 50%
- ただし、2 つのチャンク（または 2 つのファイル）を分析する場合、CPU 使用率は 1 つのファイルの 2 倍にはならず、依然として約 50%の CPU 使用率に制限される
- 4 つのチャンク（または 4 つのファイル）を分析する場合、CPU 使用率は 50%を超えることはなく、50%が 4 つのチャンク（またはファイル）全体に割り当てられる

qualifyconsole.exe プロセスの実行の優先順位を変更しました。以前のバージョンでは、「通常」の優先度に設定されていました。v2023.2.2 では優先度は「通常以上」に設定され、より良い動作とパフォーマンスを提供します。

バグフィックスおよび改善点

- v2023.2.0 において、音声統合時間が正しく動作しない問題の修正。「音声統合時間とフレームレートを合わせる」項目のチェックを外した場合、音声統合時間の値は使用されず、DB に誤った結果をもたらして分析がクラッシュしていました。
- DF フォーマットを使用したイベント尺長が、TC 形式での尺長として表示する際にドロップフレームの規則に従うように改善
- 部分分析の開始 TC の設定において、DF として存在しないタイムコード（例：00:01:00;00）が指定された場合、誤った TC がイベントに表示される問題の修正。次の有効な TC へ自動的に変更されるように改善（例：00:01:00;02）
- HTML レポートに変更を加えた場合、PDF アイコンをクリックすると誤ったメッセージが表示される問題の修正（旧メッセージ：PDF を作成できませんでした。再作成されます）。これは PDF レポートが再作成中でまだ準備が完了していないことが原因のため、メッセージの内容を変更しました（新メッセージ：PDF を再作成中です。数秒後にもう一度お試しください）
- 一部の状況（Windows のスリープまたは再起動）で PDF の生成が正しく継続されず、ダウンロード時に「PDF レポートを取得できませんでした。再作成します」というメッセージが表示される問題の修

正。一部のスリープや再起動の状況に対しては修正済みですが、「休止状態」の状況では問題が残っています。

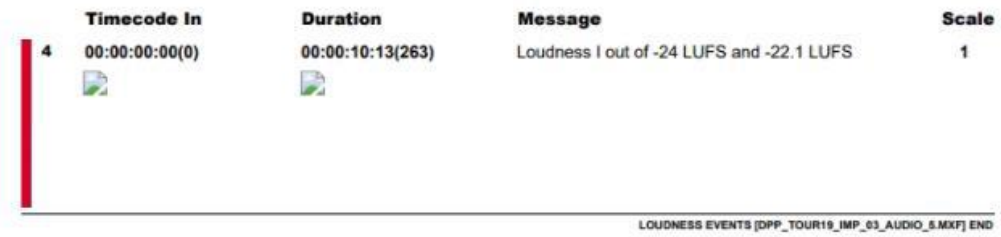
- 目視イベントの追加後、メインページに戻って HTML レポートにアクセスすると HTML レポートページが適切に表示されない問題の修正（ページが不完全、またはスタイルシートの欠落など）
- 高解像度の環境（2560 x 1600 や 2560 x 1440） において、HTML レポートのイベントリストにスクロールバーが表示されず、10 以上のイベントが表示されない問題の修正
- HTML レポートで部分分析の Offset 情報が表示されない問題の修正
- 特定のファイルを一時停止、再開、または中止する API コールが swagger ページ (http://localhost:8080/swagger/ui)から動作しない問題の修正

  /api-1/qc/jobs/{id}/files/{results_id}/{status}

既知の問題・制限事項

- ラウドネス分析オフセットの値が設定済みの状態でテンプレートを結合でロードしてプロジェクトを保存すると、ラウドネス分析オフセットの値がデフォルト（空欄）に戻る（回避方法：プロジェクトの保存後にラウドネスオフセットの値を改めて入力し、プロジェクトを保存する）
- HTML レポートにおいてファイル属性（フレームレートおよびアスペクト比）の表示が不適切である
- ビデオの詳細ページでデッドピクセルマーカーが表示されない
- 詳細ページのタイムラインでファイルの末尾部分が表示されない（回避方法：タイムラインをズーム表示する）
- 閾値設定時にカスタムのメッセージを入力後、深刻度などを変更するとデフォルトのメッセージに戻る
- 閾値の区間と継続時間を同時に設定するとイベントが表示されない
- 静止画検出において、コーデックの違いによりイベントが検出されないことがある（ProRes422HQ）
- 静止画検出で複数の画像を指定すると、2 番目以降の画像のイベントが検出されない
- Offset を使用した部分分析で、ビデオ/オーディオ詳細のタイムラインの開始 TC にファイルの先頭フレームの TC が表示される
- ラウドネス分析オフセットを指定すると、ラウドネスイベントの開始 TC が 1 フレーム前倒しで表示される
- 部分分析の使用時、分析された尺長よりもイベントの継続時間が長い場合、レポートにおいてイベントの尺長が 1 フレーム長く表示される
- Gamut Check のイベント詳細がレポートに表示されない
- PDF レポートにおいて、HDR Checks に属する項目の閾値とイベントが表示されない
- HTML レポートでイベントがタイムコード順で表示されないことがある
- システムのクリーンアップが一時停止中のプロジェクト内に適用されない
- システムのクリーンアップ時、入力設定のウォッチフォルダー情報が削除される
- PDF レポートのフォーマット一覧でクローズドキャプション「ARIB STD-B37」が表示されない
- チャンクベース分析で MXF セグメントを有効にしてマルチパートファイルを分析すると不一致が検出されることがある。（これらの不一致は主にデッドピクセルの検出に関係しており、現在のアルゴリズムが計算に大量のフレームを必要とすることが原因）
- エラーメッセージが長すぎる場合、PDF レポートの IMF セクションの書式が崩れることがある

- IMF パッケージの PDF レポートにおいて、音声イベントのサムネイルは表示されません。（音声のみを含むファイルであり、映像のサムネイルを伴わないため）



	Timecode In	Duration	Message	Scale
4	00:00:00:00(0)	00:00:10:13(263)	Loudness I out of -24 LUFS and -22.1 LUFS	1

LOUDNESS EVENTS [DPP_TOUR19_IMP_03_AUDIO_5.MXF] END

- 整数でないフレームレートのファイルで、音声イベントの尺長のカウントが ±1 フレームの誤差が発生する場合がある

以前のバージョンの QScan(2021.x 以前)で分析されたファイルを操作する場合、一部の機能が期待どおりに動作しない場合があります。すべての機能が正しく動作するように、ファイルを再分析することをお勧めします。特にタイムコードに関連するもの(TC へのジャンプ、目視イベント、タイムラインの TC 表示など)が影響を受けます。これは、データベースで新しい TC の処理方法が使用されることによるものです。

注意：

システムが休止状態に入ると、PDF の生成が再度失敗し始める可能性があります。この問題は、「分析済み」ステータスに移行するにも関わらず、PDF レポートのダウンロードアイコンをクリックすると「PDF レポートを取得できませんでした。再作成します」というメッセージが表示され、PDF レポートを取得できないという現象です。この場合に推奨されるアクションは以下の通りです。

1. タスクマネージャーを開きます
2. 「詳細」タブを開き、server.exe を探して「タスクの終了」を選択します
3. Windows のサービスアプリを開きます
4. QScan Service と QScan Web Service を停止します
5. タスク マネージャーで、php.exe、cgi-php.exe、または qualifycontrol プロセスが実行されていないか確認します。これらが実行中の場合は強制終了します
6. QScan Web Service と QScan Service を再開します
7. PDF のダウンロードアイコンをクリックします

   この段階で PDF が再作成され、PDF レポートがダウンロードされます。